

第29回 放送番組審議会 議事録

- ◆開催日：2016年3月23日（水）10:00～13:00
 - ◆場所：札幌パークホテル 4F 金華
 - ◆出席者：番組審議委員6名中5名出席（1名欠席）
 - ①山本 強（会長）北海道大学 大学院 教授
 - ②星野 尚夫（委員）札幌観光協会 会長
 - ③北野 宏明（委員）北海道新聞社 取締役 電子メディア局長
 - ④讚良 美規（委員）ラ・ウィル代表取締役
 - ⑤成田寿美子（委員）MC ミューズ代表取締役
- J:COM 札幌 代表取締役社長 西尾 武
J:COM 札幌 札幌メディアセンター長 丸本 靖
J:COM 札幌 札幌メディアセンターマネージャー 坂本 貢
J:COM 札幌 管理部（事務局） 雨尾俊英

記

1. 開会宣言

2. 山本会長挨拶、及び各委員の自己紹介、近況報告

3. J:COM 札幌 西尾社長 挨拶

- ・現在、80万世帯のお客様を対象にケーブルテレビ事業を展開しており、本年度も東区・西区へのサービスエリア拡大を図り、エリアカバー率も87%となった。
- ・当社のコミュニティチャンネルの視聴可能世帯数は、1月末現在で約500,000世帯となり、また昨年11月からは、「J:COMテレビ10ch」「J:COMチャンネル11ch」とともに、大幅な番組改編を行った。
- ・会長をはじめ委員の皆様には、コミュニティチャンネルのみならず、J:COMに対する忌憚のないご意見をいただきたい。

4. コミュニティチャンネルの報告

(1) J:COMテレビ 10ch（J:COMグループ全局で放送）

「地域発、全国エリア」をコンセプトに、以下3つの新番組を立ち上げ放送中。

①ご当地サタデー <60分番組>

東京スカイツリーの「J:COM Wonder Studio」に地域の首長と地域出身タレントをゲストに招き、ご当地プロモーションを送る地域情報トークバラエティ番組
→2016年秋頃の札幌市秋元市長出演を調整中

②まるごと動物ウォッチ <24分番組>

お家にいながら、全国各地の動物園を楽しめるバーチャル動物園を体感できる番組
→札幌円山動物園も放送中（4K撮影・HD放送）

③ジモデ <30分番組>

街を訪れたタレントを、街に縁の深い方が広報課・観光課と協力のもとデートコースを決め、タレントを"おもてなし"する「街」紹介番組

→2016年夏から秋に札幌で番組制作・放送予定

(2) J:COMチャンネル 11ch (札幌市内で放送)

「ど・ローカル」をコンセプトに、町内会・学校・サークル単位の地元の特化した編成。

2015年11月スタートの新番組は以下の4つ。

①デイリーニュース <20分番組>

地域の皆さんの活躍などをいち早くお届けする地域密着のニュース情報番組

(月～金、毎日生放送)

②札幌人図鑑.TV <20分番組>

2012年からスタートの「地域で活躍する人達の人となりに触れたインタビュー」動画サイト(365日毎日配信)。これを出演者数1,001回目からは「札幌人図鑑.TV」として放送開始&WEB配信。 ※今後、J:COMグループ内の仙台・関東・関西・福岡の各地で、「〇〇人図鑑.TV」として放送を予定

③sapporoジモスポ★ <30分番組>

小中高に加え、社会人・シニアなど、地域スポーツにスポットを当てたJ:COM初のスポーツ番組。

④さっぽろSHOW <30分番組>

札幌市内の各種団体、サークルによるステージ発表会のほか、学校行事・地域イベントなど様々な活動を通じ、大勢の「輝く人達」の姿をインタビューや企画も交えて紹介

- ・その他、レギュラー番組「GO!コンサドーレ」「ぶらり♪お散歩カメラ」の紹介。
- ・特別番組「高校野球北海道大会札幌支部予選」では、麻生球場の全22試合を生放送。
- ・2016年度の特別番組は、2015年度実績に加えて「こども盆踊り大会」「成人式特番」や「ジモスポ」「さっぽろSHOW」の長尺特番も予定。
- ・2016年度の新番組「わくわく一年生」では、教育委員会や学校長会のご指導をいただきながら、可能な限り多くの新一年生に出演いただき、将来の夢を自由に語ってもらう。(市内15～20校を対象に現在調整中)
- ・2015年11月から、4K放送をスタート。

コミュニティchも、4Kで制作しHD(2K)で放送する番組が多くなってきた。

※「4K徳島映画祭2015 in 神山」において、応募作品60品の中から当社制作の『湿原の神～タンチョウと生きる』が部門賞「4K技術賞」を受賞

5. 番組編成に関する意見交換

<会長> 「ど・ローカル」のコンセプトが明確になった。他メディアに比べると透明感のあるところがJ:COMの魅力である。札幌人図鑑.TVを皮切りに、同フォーマットが全国へ展開されることは大変すばらしいことで、市長から隣のおばちゃんまでを毎日・一日・一人の放送をする編成に踏み切った決断は、価値がある。

<J:COM> 一台のカメラで、BGMなしの手作り感に加えて、笑っていいもののテレフォン

ショッピングには至らないが、落ち着いたマンネリズムが故の“安心感”もコンセプトのひとつ。

<会 長> 今後予定している札幌市長の定例記者会見を生放送することは、とても画期的なこと。他メディアとの差別化として、このJ:COMらしさをアピールすべき。

<J:COM> 市長が発信する会見内容をそのまま視聴者に届けることが、当社の使命であり大切なことである。

<会 長> 透明感のあるメディアというところが、J:COMの特徴であり、価値がある。過去に比べて、より会社の方針が明確化して良いと思う。

<委 員> 市場では、4K対応テレビしか販売されていないぐらいの状況であり、2020年東京五輪までには更に加速するだろう。

<J:COM> 2020年を照準に加速することは間違いないが、地上波の4K放送は未だ先の話。近々では、BSの4K放送が先となるが、「4K制作」と「4K放送」の違いを理解していただきたい。なお、J:COMでは、ご自宅の4Kテレビと当社から貸し出す4K対応端末があれば、4K放送を視聴することができる。

<委 員> NHK札幌放送局で8Kを視聴したことがあるが、大きな画面だったかもしれないが映像が鮮明すぎて違和感があった。

<J:COM> NHKさんは、4Kの上の8Kを推進されているが、技術的にもハードルは高い。撮影技術スキルも重要である。

<J:COM> J:COMでは、2016年リオ五輪の放送権を一部獲得した。メジャー種目ではなく、どちらかと言えばマイナー種目の放送となるだろうが、非常に画期的なことであり、視聴者の皆様に喜んでいただけたと思う。

※J:COMテレビ10chで放送予定

※放送種目やスケジュール等は、確定次第、随時リリース予定

<委 員> 民放・NHK以外で放送権を獲得したことは、素晴らしいことだと思うが、J:COMが独自で現地へ行って、撮影収録するのか？

<J:COM> グループ会社のJスポーツと協力のもと、所謂「国際映像」を使用した放送となる予定。なお、2020年東京五輪の放送権については全くの白紙。

<委 員> 今年も高校野球の生放送をとっても期待している。強力なコンテンツである。

<J:COM> 前回の3会場中1会場での生放送だったということもあり、様々な意見を頂戴したので、今年はそれら検証した上で計画を進めていく。

<委 員> 高校野球以外に他のスポーツを放送する予定はあるか？

<J:COM> 地元をキーワードに、旬なラグビーに加えて様々なウィンタースポーツを取り上げていきたい。

<委 員> 「わくわく一年生」について、他メディアでは一般的に後ろ姿や俯瞰で撮影し個人を特定できないようにするが、全ての一年生の顔や氏名を映すのか？

<J:COM> 校長会や各学校と相談しながら、まずは参加希望を募る。その後、個別に事前の打合せを行い、書面で許諾を得ることも視野に入れながら臨機応変に進める。

<委 員> 今後、「料理番組」を放送する予定はあるか？

<J:COM> 残念ながら、今のところ予定はありません。

<委 員> 主婦だけではなく、男性も「クックパッド」を見ながら料理をする時代であり、

北海道ならではの季節感のある料理番組を常に見ることができる環境が欲しい。

<会長> 昨今の料理番組というのは、2つに分かれると思う。

ひとつは「ファッションとしての料理」で、作る料理よりも画面に出てくる人のライフスタイルやキャラクターを好んで視聴する。D-Lifeのような番組。

2つ目は「レシピとしての料理」。上手においしく作るために、材料から分量、手順まできちんと説明してくれる番組。家庭のキッチンでは、テレビを見ながら料理を作ることは困難なので、スマホやモバイルでWEBを利用する方が便利。

<J:COM> 参考にさせていただきます。

<J:COM> 直接、番組とは関係ないが、雪まつりの会場運営について伺いたい。

大通会場1丁目で、今年もスケートリンクとステージイベントを運営し、特にステージイベントのメジャーLIVEでは、来場1,000人を超え好評のうちに終わった。一方、地元ローカルを意識し、市内の中高生を招いてダンスを披露してもらったが、今後はもっと札幌市民の皆様を活用していただきたいと思っており、観光客のみならず、市民の皆様にも足を運んでいただけるような会場にしていきたい。

<委員> 地元密着スタイルが良い。「さっぽろっこ」の顔が見れるテレビは必ず定着する。

<J:COM> 市民の皆様にもステージを開放し、その模様をJ:COMチャンネルでも放送したい。ステージの広さが狭いため、一度にステージに上がる人数に限られる。また、控室の確保も課題のひとつ。

<委員> 屋外のイベントでは、「音」が重要。YOSAKOIは人数を変更することができ、音あり動きありで良いかも。また、太鼓の音は、外国人が振り向く。

<委員> 夏季に比べて冬季は雪が音を吸収する。そして、最近のPA（音響）は指向性に優れ、クオリティが高い。

<委員> 屋外のイベントでは、映像もさることながら、「音のデザイン」を考えた仕掛けが必要。

<J:COM> 様々のご意見をいただき有難うございました。

6. 昼食

「2015年度 J:COMチャンネル・ダイジェスト版」を視聴しながら昼食。

7. 事務連絡

次回開催は、2016年10～11月にJ:COM札幌局舎で開催する予定。

(J:COMチャンネル デイリーニュース生放送の見学も準備)

8. 閉会

以上